

## 三好崇之 博士 (防災科学技術研究所 地震研究部)

---

Speaker: Dr. Takayuki Miyoshi

(National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention)

## 「西南日本下に沈み込んだフィリピン海プレートの形状とその地学的意義」

---

Lecture Title: Geometry of the subducted Philippine Sea plate beneath southwest Japan and its tectonic significance

2008年7月16日(水) 15:00-16:30

---

### 地震・噴火予知観測センター第一会議室

---

Date & Time: 15:00-16:30 on Wednesday, July 16, 2008

Place: Lecture Room #1 (Annex of Research Center for Prediction of Earthquakes and Volcanic Eruptions)

---

#### 要旨:

西南日本下に沈み込んだフィリピン海プレートの形状を、震源分布から推定した。主要な結果は、伊勢湾から琵琶湖にかけて、ゆるやかな角度で傾斜する浅い尾根状のスラブ(伊勢湾一湖北スラブ)が存在すること、紀伊半島下では、スラブが北西一南東方向に断裂していることである。この2つの特徴に関して、地学的な意義を検討した。

2004年紀伊半島沖地震の余震活動のうち、北西一南東方向の余震分布の深部延長には、紀伊半島下で推定したスラブの断裂が位置する。南海トラフから紀伊半島下までフィリピン海プレートが断裂している可能性がある。一方、東進する西南日本は、浅い伊勢湾一湖北スラブと一種の衝突をしているとみられる。これが、近畿三角帯に顕著な東西圧縮場をもたらす要因だと考えられる。

講演では、スラブ内地震の後続波に関する研究もあわせて紹介する。